弟子屈の歴史・文学散歩

National Parks of Japan

阿寒摩周国立公園

てしかが（弟子屈）へようこそ！

アイヌ語のテシ（魚を採る“簗”）カ（上）が命名由来となっている弟子屈町が、文献に初めて登場したのは 1859 年（安政 6）年。北海道の名づけ親でもある松浦武四郎がこの周辺を探検して歩き、記録に残しました。今年は松浦武四郎が蝦夷地を「北海道」と名付けてから１５０年が経ち、武四郎本人も生誕２００年と記念の年です。時の流れを感じながら、ぜひ「歴史・文学散歩」してみてください♪

【モデルコース】～半日～

川湯ＥＭＣ⇒池の湯（車で約 10 分）⇒古丹・コタン（車で約 5 分）⇒和琴半島（車で約 7 分）⇒更科源蔵文学資料館（車で約 20 分）⇒永山在兼の碑（車で約 10 分）⇒アトサヌプリ（車で約 30 分）

① 松浦武四郎の碑・池の湯

1858（安政５）年に屈斜路湖畔を訪れた松浦武四郎が詠んだ、

久寿里の湖
岸のいで湯や　あつからん
水乞鳥の　水乞ふて鳴く

といううたが刻まれた碑があります。

池の湯は現在、露天風呂マニアに人気の場所となっています。碑は露天風呂の右奥にあるのですが、草が伸びている時期にはわかりにくいかもしれません。

② 松浦武四郎の碑・古丹

1858（安政５）年に屈斜路湖畔を訪れた松浦武四郎が詠んだ、

汐ならぬ
久寿里の湖に　舟うけて
身も若がえる　こゝちこそすれ

といううたが刻まれた碑。

屈斜路コタンアイヌ民俗資料館前広場に建っています。

③ アイヌ民俗資料館

弟子屈・屈斜路地域に暮らしてきた先住民族・アイヌの人たちの歴史や文化、生活習慣などを紹介する施設。祭事具や衣装、道具など約 450 点を展示しています。現在では貴重な資料である「熊まつり」のスライドがあります。

４月 29 日～10 月 31 日開館
９：00～17：00
高校生以上　420 円
小・中学生　280 円
TEL　015―484―2128

川湯エコミュージアムセンター

開館時間

４月～10 月　8:00～17:00

11 月～3 月　9:00～16:00

休館日

毎週水曜日（７月第３週～８月 31 日は無休、水曜祝日の場合は翌日）

年末年始（12 月 29 日～1 月３日）

入館料　無料

088-3465

北海道川上郡弟子屈町川湯温泉 2-2-6

TEL 015-483-4100

FAX 015-483-4111

http://www.kawayu-eco-museum.com/

④ 更科源蔵文学記念館

更科源蔵は 1904 年、弟子屈村熊牛原野（当時）生まれ。「種薯」を代表作とする詩をはじめ、地方史、博物誌など、北海道の風土に根ざした多くの文学作品を世に送り出しました。代用教員として屈斜路コタンで過ごしたときの内容も多く残っています。

釧路圏摩周観光文化センター内
９：00～17：00　入館無料
火曜休館　TEL015―482―1616

⑤ 永山在兼の碑

阿寒摩周国立公園の父と言われるのが永山在兼。1889（明治 22）年、鹿児島県日置郡生まれ。大正 7 年釧路土木派出所長として赴任し、阿寒摩周国立公園の前身となる地域の観光道路網の整備を行いました。中でも阿寒横断道路は難工事で、当時は 477 曲がりともいわれ急カーブの連続でした。現在の双岳台は「永山峠」と名残り、当時峠にあった碑は奥春別に移されています。日置市と弟子屈町は姉妹都市提携が行われ今も交流が続いています。

⑥ 種市佐改

1923（大正 12）年釧路に生まれる。旧国鉄（現在の JR）を経て、釧路観光連盟事務局長に就任し、「タンチョウ・ハクチョウ・流氷の三白観光」と提唱し年間の観光の基礎を作りました。1989 年には釧路圏摩周観光文化センター観光資料室長として着任し、初代弟子屈図書館長を務め地域に貢献します。著書に『阿寒国立公園の三恩人』『阿寒国立公園物語』『雑学・道東の旅と観光』などがあり、『広報てしかが』に連載をして今も受け継がれています。

⑦ アトサヌプリ

川湯の始まりはアトサヌプリ（硫黄山）の硫黄採掘事業でした。釧路の漁場持・佐野孫右衛門が現地調査を行ったことをきっかけに硫黄採掘が始まりました。その後、経営者が安田財閥の創始者である安田善次郎に変わり、事業は大きく展開していきます。当初は馬 300 頭で硫黄を馬搬していましたが、より多く運搬するため開通したのが安田鉄道。その跡地は現在、青葉トンネルという散策路として利用されています。